

8 研究構想図

【学校教育目標】	自ら学び	心身を鍛える	感性豊かな生徒の育成
【校訓】	進歩(文)	健康(武)	協力(道)

目指す生徒像

<p>目標をもち 進んで学習する生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 夢に向かって進んで学習に取り組み、努力しよう。 ○ 基礎的・基本的な学力を身に付けよう。 ○ 自分の考えを表現して共に学び合い、高め合おう。 	<p>心身を鍛え 最後までやり抜く生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 苦しさや困難を乗り越え、心と体を鍛えよう。 ○ 目標をもち、最後まで粘り強くやり抜こう。 ○ 無言清掃や係活動などに自主的に取り組もう。 	<p>思いやりの心もち 協力して活動する生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 明るく、心のこもった挨拶を誰にでもしよう。 ○ ふるさとの自然や人、文化に触れ、誇りをもとう。 ○ 温かく友だちと関わり、しっかりした返事をしよう。
---	--	---

【研究主題】	主体的に学び 互いに高め合う生徒の育成
--------	---------------------

【研究仮説】

- 1 生徒自ら考え、判断し、行動することができる場を数多く設定することにより、自分のよさや他者のよさに気づき、自己有用感が育まれ、主体的に学ぶ生徒を育成することができるのではないかと。
- 2 思考・判断・表現する場を充実させることにより、基礎・基本を定着させ、より深い学びにつなげることができるのではないかと。

<p><研究の重点1></p> <p>自己有用感を育むための指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒一人一人が活躍し、学びを共有する場を意図的・計画的に設定する。 (2) スモールステップにより、生徒自身が「わかった」「できた」と実感できる機会を設定する。 (3) 学びと生活とのつながりを実感させるような授業展開を工夫する。 	<p><研究の重点2></p> <p>既習事項を生かした「思考・判断・表現」する場の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 既習事項を明確にし、生徒一人一人の学習状況を確認に見取る。 (2) 教科の特質に応じた見方や考え方を働かせ、思考・判断・表現できるようにする。 (3) 学習形態や活動の進め方を見直し、生徒同士の学び合いや振り返りの場を工夫する。 	<p><その他の実践事項></p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 教科面談を実施し、生徒の実態把握と信頼関係の構築に努める。 (2) 教科部と学習委員会が連携し、YCSを組織的・計画的に進める。 (3) キャリア教育の視点で、異年齢集団や学校外の人々との交流の場を充実させる。
---	---	---

【検証計画】

- (1) 総合学力調査、全国学力・学習状況調査、秋田県学習状況調査、高校入試を一体として捉えた検証改善を進める。補充学習でも継続的に取り上げ、生徒自身も学習内容の定着を実感できるようにしていく。
- (2) I～IV期と前・後期末に「実践の重点・具体的施策」に関する評価を行い、授業改善に生かす。
- (3) 県学習状況調査の質問紙について、年2回実施することで生徒の変容を把握し、授業改善に生かす。
- (4) 年2回の「キャリアアンケート」を通し、キャリア教育における学びの成果と生徒の変容を把握し、共通理解のもと全校体制で検証・改善を進める。

